



現代人形研通信

13号 2025年12月

メールマガジンをお送りしているアドレスは送信専用です。事務局へのご連絡は member.gendainingyo@gmail.com へお送りください。

本年は大変お世話になりました
新しい年の皆様のご多幸をお祈りいたします

contents

現代人形研からのお知らせ
インフォメーション

特集

第1回人形研展 速報

受賞者と作品

展覧会レポート

有田依句子個展

ami 大久保美江作品展

影山多栄子個展

西村 FELIZ 人形展

第14回 にんぎょう うらら展

徒然コラム

西村 FELIZ



現代人形研からのお知らせ

勉強会のお知らせ

読書会『今日の人形』を読む

『今日の人形』（昭和 34 年 日本経済新聞社発行 編者 近代人形美術会）は、今の私たちにも共通する問題提起があり、この書を通して現代の人形を見直してみたいと思います。参加者による発表もあります。現在、8 名の参加者で毎回 4 ～ 5 ページを読み進めています。関心がある方はお気軽に下記までご連絡ください。

進行役 榊山裕子

第 6 回 2026 年 1 月 22 日（木）20:00 ～ 22:00

※ 1 月は ZOOM にて開催予定ですが、2 月から Webex（ウェブエックス：ZOOM 同様の機能のあるオンライン会議プラットフォーム）に移行を予定しています。

会費 無料 用意するもの 特になし『今日の人形』をもし入手できればお勧めします。古書ですが価格が高騰しているようです。入手できない方のために毎回扱うページの PDF を閲覧できるようにします。

参加資格 当会の賛助会員・正会員 ZOOM に接続できること

申込み方法 下記まで

メール member.gendainingyo@gmail.com までお申込ください。ZOOM の招待メールを送ります。前日まで受け付けますが、勉強会で読むページは事前に読むようにしておいてください。

※途中から参加ご希望の方には過去録画の URL をお送りします。

年会誌の発行について

『人形と現代 現代人形文化研究会年会誌』の発行が遅れております。2026 年 1 月～2 月のあいだに刊行予定です。

一年間の通信のまとめや投稿記事を掲載します。正会員の方には 1 部ずつお送りします。

賛助会員の方は別途、ネット書店で購入いただくかたちでのご提供となります。次号では入手方法をご案内できる予定です。

（イメージ画像）

人形と現代

現代人形文化研究会年会誌

1 号～10 号収録

2024 年 1 月～2025 年 6 月

A4 判 約 100 ページ予定
カラー 8 ページ
予価 2000 円（本体）2200 円（税込）
編集 現代人形文化研究会
発行 DFJ プレス

内容

- ・ 1 ～ 10 号の通信主要記事を収録
- ・ 巻頭書き下ろし論考
榊山裕子
「人形愛」と「ビッグマリオンズ」を巡る一考察
羽関チエコ
「人形芸術運動再考のための覚書」

編集委員募集

当会編集委員会では、編集委員を募集しています。賛助会員、正会員のどちらでも、通信の編集に関心のある方はお申し出ください。原稿依頼、整理、デザイン、企画など、できる時間・範囲で関わっていただければ助かります。

条件 メールで連絡のやりとりが出来る方、関心のある方は事務局まで、ご一報ください。

インフォメーション

展覧会情報

杉田明十志人形展

横浜人形の家 2 階常設展示室 トビックコーナー / 3 階常設展示
2025 年 11 月 20 日 (木) ~ 2026 年 1 月 12 日 (月・祝)
月曜休館 (月曜日が祝日の場合は開館し翌平日に振替休館)
年末年始休館期間 12 月 29 日 (月) ~ 1 月 3 日 (土), 1 月 5 日 (月)
9:30 ~ 17:00 * 最終受付 16:30
横浜市中区山下町 18 番地
TEL 045-671-9361
URL <https://www.doll-museum.jp/>

第 13 回クラフトアート人形”マッチング”コンクール

「天涯同夢」

<東京展> 2026 年 2 月 1 日 (日) ~ 7 日 (土) 11:00 ~ 19:00 (初日 15:00 開場 最終日 15:00 閉場)

東京交通会館 地下 1 階 ゴールドサロン

<大阪展> 2026 年 3 月 24 日 (火) ~ 29 日 (日) 10:00 ~ 18:00

リーガロイヤルホテル大阪 地下 1 階 リーガロイヤルギャラリー

いずれも入場無料

URL <https://salon.craft-art-doll.com/event/5434/>

※こちらはコンクール第一次審査の通過作品と招待作家の展示となります。今回の第一次審査は終了していますが、同コンクールは毎年 8 月にエントリー受付となります。

募集

ドールアート展 2026 in うつくしま 第 10 回全国創作人形コンクール

会期 4 月 18 日 (土) ~ 25 日 (土)

会場 MAX ふくしま 4 階「A・O・Z (アオウゼ)」特設会場

募集要項配布中 / 申込み受付 12/1 ~ 1/31 写真送付 2 月末〆切

特別大賞 1 名 賞状 / 賞金 50 万円、大賞 1 名 賞状 / 賞金 20 万円、準大賞 1 名 賞状 / 賞金 10 万円、入賞 8 名 賞状 / 賞金 5 万円

審査料 一次審査 3,000 円 (1 作品) 二次審査 7,000 円 (1 作品)

詳細 URL (諸案内、様式ダウンロードもこちらから) https://l-pupe.net/news_event_info/ootake-kyo/604/

主催: ドールアート展 2026 in うつくしま実行委員会

問い合わせ ドールアート実行委員会 FAX: 024-522-1305 <https://l-pupe.net>

※ INFORMATION の情報を募集しております。

その他

当会理事長出演番組

「人形と手仕事は世界をつなぐ FANTANIMA! とスラヴの作家たち」

インターネット番組 「ゲンロンカフェ シラスの上田洋子のロシア語で旅する世界 Y P A !」に、理事長の羽関チエコが出演しました。羽関の人形との関わりに絡み人形の歴史の話や当会の紹介、スラヴの作家たちとの関わりを話しました。聞き手の上田洋子さんはロシア文学や演劇を専門とし、現在ゲンロンの社長をされています。ロシアをはじめとする情勢に詳しく、4 時間にわたる収録となりました。インターネットでどなたでも視聴できます。

冒頭無料視聴可 (30 分) 本編 (約 4 時間) 購入 1485 円

2026/04/23 23:59 までご覧になれます。

<https://shirasu.io/t/genron/c/ura/p/20251014174247>

ゲンロンカフェ シラス



第1回 人形研展 速報

2025 年 12 月 13 日～20 日 東京都美術館 ロビー階第4展示



第1回「人形研展」は去る12月20日に無事に終了いたしました。

現代人形文化研究会にとって初めての試みであり、最初から最後まで手探りでした。募集に対して、一般からの公募59名、会員からの公募43名、学生6名合計108名の応募がありました。第一次審査は理事会が行いました。東京都美術館の展示のガイドラインに沿うかどうか（素材の腐食性、公序良俗など）を確認し、基本的に優劣の判断はしていません。この時代に人形として作られたものをすべて受け入れ、審査員や来場者に判断を委ねるという方針でした。出品数としては結果的に未完成の作品1点（一次審査で落選）、到着時破損の1点を除き応募者106点と、審査員作品6点、理事作品3点となりました。8つに分けた展示室では、基本的に作品一点に一台の什器を使い作品毎の間隔を広く取りました。人形はそれぞれの世界観が強いものですが、互いに干渉することなく落ち着いて鑑賞できる会場になったと思います。

審査は各審査員が都合の良い日に会場で審査を行い、20日に審査発表と授賞式を行いました。

来場者数は約2100人ありました。多くの方が、ゴッホ展や他の展示を目的に来られた方だったようです。CoNiCS(コニックス)賞の投票にはほとんどの方が協力してくれました。そのためか、どの方も作品と説明をじっくりご覧になり滞在時間が長く、「人形って面白いんだね」「こういう人形を観るのは初めて」とリピートされる人も少なくありませんでした。嬉しい驚きで、一人一票のCoNiCS賞の投票は106人の方、それぞれにばらけました。応募者による作品説明（コンセプトや素材、技法など）を会場に掲示していたので、来場者の方はそれぞれの作品がどうして、どうやって生まれてきたのかに興味をもって読んでくださったようです。

歴史のある東京都美術館にとっても、人形専門の公募展は初めての開催でした。戦前から表現媒体としての人形の受け皿をめぐって作家や関係者による様々な動きがありましたが、人形研展はその流れに新しい一歩を加えたのではないかと思います。力作で臨んでくださった出品者の方、影で支えてくださった会員のボランティアの方々、ご多忙なか真摯に応募作品と向き合ってくださいました審査員の皆様、そしてこの企画をずっと応援してくださった審査委員長の四谷シモン氏のご協力なしには実現できないことでした。この場で心より篤く御礼申し上げます。

受賞作品のご紹介や審査員講評など詳細は、次号でお伝えいたします。

（羽関チエコ）



受賞発表

凡例

番号（公式サイトのリスト番号）／作家名／作品タイトル

現代人形文化研究会大賞

No.30 山上恵子 「追憶」

四谷シモン審査委員長賞

No.99 JIUMY 「Alice」

日比野克彦特別審査委員賞

No.78 彩梅れん 「Untitled」

審査委員賞

長尾千斗賞

No.90 ちしたかずよ 「どこにでもいける なんにでもなれる」

山本由也賞

No.53 新家智子 「奏」

ビコビコ賞

No.94 ネムリブカ リョウ 「白獣（はくじゅう）ハタコ」

杉田明十志賞

No.57 成瀬麻里子 「キャラメル」

よねやまりゅう賞

No.11 人形横町 「白露（はくろ）」

ミヤタケイコ賞

No.67 Tagui studio 「Tagui ～Findme～」

水澄美恵子賞

No.36 九重 十日 「守護天使」

矢部藤子賞

No.57 成瀬麻里子 「キャラメル」

UNDER 22 賞（3名）22才以下の出品者対象

No.4 SANKICHI 「ぐるり百面相」

No.95 佐藤彩夏 「終生の渡り鳥」

No.97 Hina linuma 「無題」

CoNiCS 賞（10名）会場投票

1位 No.50 今村仰夫 「Nihil ex machina」

2位 No.30 山上恵子 「追憶」

3位 No.53 新家智子 「奏」

4位～10位は僅差のため、順位をつけておりません。

No.17 やちぐちひろゆき 「ゴリアテの首台」

No.37 一宮 圭 「安倍童子（あべのどうじ）」

No.40 小武内 「甘やかなにおい」

No.83 月乃光 「恵み」

No.86 江口 綴 「人形門 其の三」

No.94 ネムリブカ「リョウ 白獣（はくじゅう）ハタコ」

No.107 長澤知美 「Forest Welcome - 擬態の根源」

全出品作品の画像と説明は現代人形文化研究会の公式サイト

「公募展」専用ページにある

「出品作品全リスト」をクリックするとご覧になれます。

<https://www.gendainingyo.com/koubo>

現代人形文化研究会大賞

山上恵子「追憶」



何気ない平凡なテーマですけど、
人間にとってとても大切なものが
表わされてるような気がしました。

(四谷シモン)



山上恵子さんと四谷シモン氏 撮影 菅原多喜夫氏

四谷シモン審査員長賞

JIUMY「Alice」



双子の可愛らしさがよくできている
と思いました。

(四谷シモン)



四谷シモン氏

特別審査員 日比野克彦賞

彩梅れん「Untitled」



率直に好きだな、と。
彩梅れんさんの人形は、人間の気持ち
を写しとるような世界観の人形と
はまったく違う、
自分でない第三者の、どこかの誰か
じゃない、
まったく違う感覚から出てきた人形
みたい。

(日比野克彦)



日比野克彦氏

長尾千斗賞

ちしたかずよ 「どこにでもいける なんにでもなれる」



見る人に、生まれてくる生命体は何なのかを委ねているところが魅力的だと思いました。素材感も固定化しないで挑戦しているようで未来への希望を感じさせるような感覚がありました。

(長尾千斗)



長尾千斗氏

山本由也賞

新家智子「奏」



技術的なものと立体にするイメージ力が私にとっては評価の対象になります。どこから見てもきちんとした人形であること。新家さんの人形は表情がとても豊かで、自分のものがあって、立体をきちんと作り上げる能力があります。

(山本由也)



山本由也氏

よねやまりゅう賞

人形横町「白露（はくろ）」



全体的に形や色調が題材に合っていて、美しい流れがあっているなと思いました。シンプルでいいと思います。ただ、関節が必要かなと気になりました。

(よねやまりゅう)



よねやまりゅう氏

ピコピコ賞

ネムリブカ リョウ

「白獣（はくじゅう）ハタコ」

自分も着ぐるみをつくっているので共感がある。これが人形でいいのかみたいな領域を侵犯するようところが面白かったですね。

(ピコピコ)



ピコピコ氏



羊毛とぬいぐるみの技法を使っているのですが、生地や素材のあわせかた、動物に乗っている人の表情もまとまっていて、好きです。

(ミヤタケイコ)



ミヤタケイコ氏

水澄美恵子賞 九重十日 「守護天使」



静かに祈る人間に寄り添い見守る存在。
作者のテーマが作品のすみずみまで落とし込まれているのが伝わりました。
特にステンドグラスの使用。祈る人間の心模様次第でいろんな色の光に導いてくれるのではないのでしょうか。

(水澄美恵子)



水澄美恵子氏

杉田明十志賞 / 矢部藤子賞 成瀬麻里子 「キャラメル」



杉田明十志氏

子供が一人でぽつんと（親を）待つ辛さを堪えている一場面を見事に表現している。子供の服の生地の毛玉がつきそうなよれた感じ、靴下の汚れ、衣装の模様、キャラメルの箱とかすごく丁寧に刺繍がほどこされていて、（子供を待たせた）そのときのことを何度も思い返して申し訳ないとか、愛おしく思ったり、そういう気持ちが全部込められているいい作品だと思いました。

(杉田明十志)



矢部藤子氏

解説読まずにみたとき、この子がキャラメルを持っているのに楽しそうな顔をしていないのがずっと気になっていて、解説を読んだときにぐっと心を掴まれてしまいました。泣いてしまいそうです。キャラメルや洋服の細かいところもすごいと思います。物語がある作品でした。

(矢部藤子)

UNDER 22 賞

22 才以下の方が対象です。当会理事の投票で上位 3 名の方が入賞されました。



SANKICHI 「ぐるり百面相」



佐藤彩夏 「終生の渡り鳥」

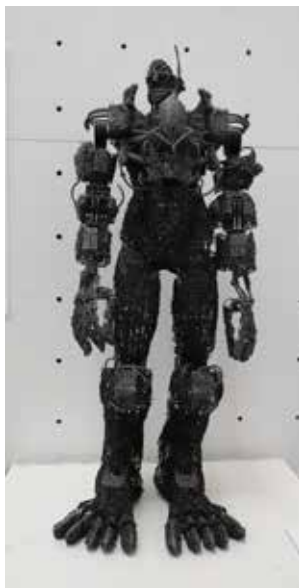


Hina linuma 「無題」

CoNiCS(コニックス) 賞

会場アンケートによる投票により上位 10 人が受賞しました。上位 1 ～ 3 位の方は得票が多く順位で発表します。他の 7 名の方の得票は僅差でした。
掲載順不同

1 位



今村仰夫 「Nihil ex machina」

2 位



山上恵子 「追憶」

3 位



新家智子 「奏」



一宮圭 「安倍童子(あべのどうじ)」



小武内 「甘やかなにおい」



やちぐちひろゆき 「ゴリアテの首台」



江口綴 「人形門 其の三」



月乃光 「恵み」



長澤知美 「Forest Welcome - 擬態の根源」



ネムリカリョウ 「白獣(はくじゅう)ハタコ」

展覧会レポート

西村 FELIZ 人形展 12 YEARS

2025 年 10 月 13 日 -23 日

ストライプハウスギャラリー（東京・六本木）



【寄稿】ストライプハウスギャラリーとわたし 西村 FELIZ

自分が中南米から帰国した翌年に行った初個展、そこに取材に訪れてくださったのが当会の現理事長である羽関さんでした。それがきっかけで、編集長をされていた人形雑誌『ドール・フォーラム・ジャパン』に、人形に全く関係がない中南米みどり紀行を連載させていただくことになりました。そんな自分の連載を面白がってくださったのが、六本木ストライプハウスギャラリーの塚原館長です。ストライプではトイレットペーパーの魔術師ニヴェス・チチン・シャインさん、浜いさをさん等、素敵な人形展が継続的に開催されるため、塚原館長とお話をさせていただく機会も徐々に増えていきました。

そしてありがたくも 2014 年から今回までの 12 年間、自分の個展を毎年開催していただくこととなったのです。とはいえ、12 年間個展を継続するというのは、アイデアや時間が枯渇し追い込まれる日々でもありました。しかし、この追い込まれ続けることにより、自分の中にあった知識と経験が繋がり、自分の限界を突破し続けることができたように思います。

そんな塚原館長からは、自分が知らない未知の話を沢山教えていただきました。様々なお客様への対応の仕方も学ばせていただきました。美味しいお茶や食物がこの世の中にはまだまだ存在するという事も教えていただきました。コロナ禍で真ん中のお客様がゼロでも、展示を開催し続けて多くの作家を守ってくださいました。

この 12 年は小・中・高と学校に通った 12 年間と同様に、自分を成長させていただいた第二の義務教育の期間だったと思います。

そのように過ごしたストライプな 12 年と、同時期に羽関さんや青の羊さんらと立ち上げた任意団体コヤーラでの経験と出会いを経た結果が当法人の設立に繋がり、そして先日開催した東京都美術館での人形研展へと繋がってきました。中南米から始まった自分の人形物語は、色々なものや沢山のひとと繋がり、そしてこれからも続いてゆく。そのように思うのです。

芋洗坂の下にそびえ続けたストライプ模様の建物と、素敵な笑顔で迎え入れ続けてくださった塚原館長には感謝しかありません。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします！



「あなたとわたし」



「TASUKETE!」

影山多栄子個展 おとなしい曲芸

2025 年 10 月 22 日～11 月 2 日

ピカレスク（東京・参宮橋）

曲芸はにぎやかなものですが、おとなしい曲芸とは？ タイトルからして影山さんらしい、民話の精霊のファンタジーが広がるようです。

10 月神無月に集った布人形の曲芸団という設定で、パレードの先頭をいく縦長の帽子をかぶった曲芸師、赤ちゃんのような手品師、長い耳をもったゆれる曲芸師など、どれもそれぞれの得意技や役割のある人形たちです。

影山多栄子さんの作品は前回の個展「楽屋のはなうたルルル」（2024 年 10 月 於ノックプラッツ）から布人形が中心となり、今回も粘土を使うとすれば顔面のマスクの部分のみです。シンプルだけど奇抜な造形や布合わせ、手描きで模様を描き込まれた人形は土俗的な風合いを醸し出しています。影山さんの作風は変化し続けるのでその時々の人形は貴重です。ただ土偶や埴輪、北米のホピ族のカチーナ人形や郷土人形などが想起させる異世界感と愛らしさが通底しており、その延長上に影山作品は生まれてくるようです。それこそが人形の魅力の本質でしょう。姿かたちが変化を続けても、ブレない影山作品には注目していきたいと思います。（羽関チエコ）



「神無月（霜月）当番」



「ゆれる曲芸師（長いみみ）」

ami 大久保美江作品展 ami 大切な友達

2025 年 11 月 4 日～9 日

ART MALL（東京・日本橋）

1999 年からぬいぐるみやパペットの制作をはじめた ami 大久保美江さんの 4 回目の個展です。

蛙や兎、猿など動物の作品を中心に制作していた大久保さんですが、今回の DM では少女の人形が中央に写っていました（写真下）。動物のハンドパペットも制作するうち、2023 年に頭の中央に棒を通してくるくる回して踊らせる人形を制作したのが好評で、人の人形の制作は少しずつ増えているそうです。

元々、型紙を起こすのが好きとのことで、最初一枚布で平面的だった人形の顔に、真ん中で布を切り替えるようにして彫りの深い顔が作れるようになったそうです。線が出てしまうけど、人形だからそれで良いと思いそのままにしているとのこと。顔の中心で布を切り替えるクロスドールはアメリカのアキラ・ブラントのように欧米では見かけることがありますが、大久保さんは独自にその技術に到達されたようで、そのパターンで作られた人形は海外作家が制作したもののようにも見えます。この人形を機に大久保さんの作品世界が一気に広がる予感がしました。（羽関チエコ）



有田依句子個展 The End and the Beginning

2025 年 10 月 18 日～ 26 日

RED CUBE GALLERY (東京・阿佐ヶ谷)

室内が真っ赤に塗られた小部屋。有田依句子さんの作品は会場のインパクトに堪えうる作品でした。

有田さんの人形は女性の視点から社会性のあるテーマを象徴的に描いているため、補完するテキストが必要になります。たとえば、「Dead Ringers」—空っぽの心と過剰な愛は似ている—は、苦しいのに共依存する男女の人形です。男の子への過剰な愛が溢れる女の子はハートから血が流れ、胸に穴があいた男性は女性から逃げ回る。正反対の二人のようだが空虚感は共通している（女の子の背中も穴が深くえぐられている）ので、顔も似せて作っているそうです。

有田さんは、説明なしに屹立する人形のあり方を認識していますが、自分の人形はコンセプトがあって作り出しているのでもってテキストで補完しなければならないといいます。

有田さんはイラストや絵での取り組みはせずに、そもそも最初は二頭身の可愛いキャラクターを作っていたそうです。それが単なる愛されキャラではなかったようで、現在のような表現に発展しました。それらはポップアートや現代美術としても解釈されうと思いますが、飛び抜けたサイズ感や狂気に走るわけではなく、慎ましやかに、さらに可愛らしさを大切にしていることが、有田さんの作品を人形たらしめているのだと思います。人形の 카테고리 では孤独な立ち位置ですが、どの人形もそんなことは意に介さぬ様子で力強く立っています。(羽関チエコ)



「Dead Ringers」
空っぽの心と過剰な愛は似ている



会場風景



「不死身ちゃんといエティ」
イエティの通称はおじい

第 14 回 にんぎょう うらら展

2025 年 10 月 25 日～ 11 月 3 日

吉徳 浅草橋本店 3F (東京・浅草橋)

市松人形の藤村光環氏を中心に市松人形師と創作人形作家のコラボ展として老舗吉徳で開催するうらら展。早くも 14 回目を迎え、今年も前期と後期に分けて開催、4 人の市松人形師と二十数名の人気創作人形作家が参加しました。創作の少女人形の人気も、昭和の市松人形の流れの延長にあると感じさせる展観です。めざましい活躍の丸美鈴、水澄美恵子らに加え、大塩雅子、滝康子などベテランの最新作が見られるのも嬉しい展示でした。クラフトアート人形コンクールで「うらら展」賞を受賞した宮島まい等 3 人の作家も展示されました。会場では藤村氏が制作を実演しており、伝統的な技法を間近に見ることができました。

第 14 回うらら展の概要はこちらからも見ることができます。(羽関チエコ)

<https://www.yoshitoku.co.jp/urara04>



市松人形制作の実演をする藤村光環氏



藤原光環



滝康子

徒然コラム

会員のフリーコラムです

食欲の秋、粘土の味

西村 FELIZ

十年程粘土を教えに伺っている高齢者介護施設がある。コロナ前は人形作りを楽しむことが出来ていた方々も、コロナ禍という虚無期間を経て、すっかり認知症が進行。現在は粘土を手渡すことができなくなってしまった。何故なら食してしまうから。捏ねて丸めた樹脂粘土は食物そのものに見えるらしく、目を離すと秒でモグモグ。そしてその顔に浮かぶ「うん、イイね！」という満更でもない表情。認知症になろうが不味いものは不味いと思うのだが、皆さん平気な顔でしっかり噛みしだかれてらっしゃる。そこで思う。粘土って美味しいのかも、と。体内への悪影響はほぼないことがわかっているので、試食してみることにした。

まずは粘土界のくさやと言っても過言ではない最強に最臭の油粘土だ。だが、口に入れた瞬間に広がる強烈な油臭さと、強烈な歯応えにより即不快。まずい。まずすぎる。呆然としたまま口腔内全ての物を吐瀉した。

次は紙粘土だ。粘土と言いつつも粘土を一切含有してないのがこの紙粘土。まさに粘土界のカニカマだ。そう思い躊躇うことなく実食するも、なんだろう、この不安感。やはり、当然なのだが食感が紙なのだ。口の中でいつまでももさつく紙。カニが入ってなくても美味しい、それがカニカマ。本物のカニカマで一杯やりたくなったので、口腔内全ての物を躊躇なく吐瀉した。

最後は本日のメインディッシュとなる樹脂粘土だ。認知症の皆様が夢中になる評判の一品。皆様の美味しい笑顔信じ、口に入れてみた。するとどうだ。思わず笑みがこぼれるほど、意外と悪くない。口腔内で嫌な匂いは感じず、白玉粉だけを捏ねたような無味の味わいが広がるのだ。薄味のすあまと言われればそのまま食せてしまう感じすらする。認知症になっても不味いものは不味く、美味しいものは美味しい。そういった意味では樹脂粘土は決してまずくはなかった。食べるものがなくなっても我が家には樹脂粘土がある。そう思えるだけで改めて人生に自信が持てた。胸を張って、樹脂粘土を吐瀉した。

とはいえ、皆様が食すことのないようこれからも引き続き気をつけていきたいと思います。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

現代人形研通信 13号 2025年12月28日発行

特定非営利活動法人 現代人形文化研究会

189-0003 東京都東村山市久米川町3丁目27-57 TEL 042-395-7547 (ノックブラツ内) 会員連絡用 Email member.gendaininyo@gmail.com

本ページの画像や記事の無断転載を禁じます。©2025 NPO GENDAININGYO BUNKAKENKYUKAI